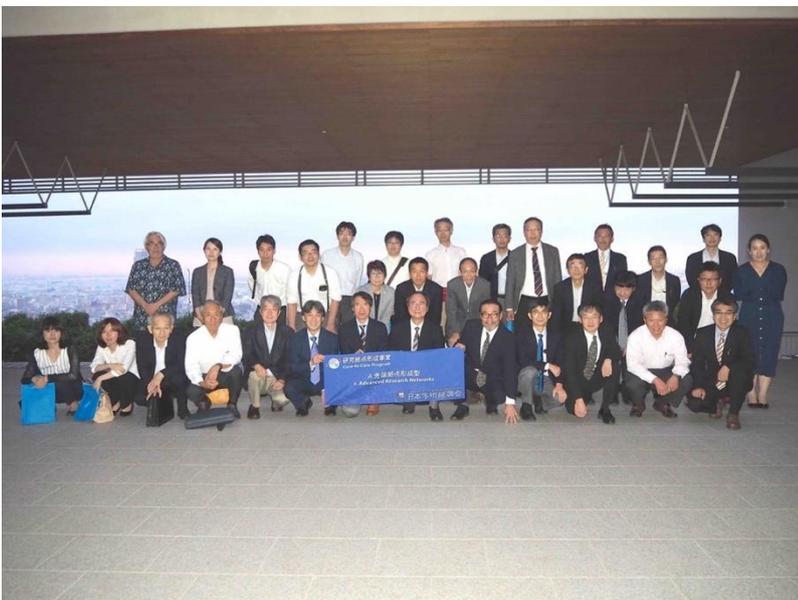


拠点形成研究交流報告：5 大学フォーラム報告

2018年9月21日(金)～22日(土)に「食の安全・安心」を教育研究の基盤とした全国5大学の研究センター(神戸大学 食の安全・安心科学センター、東京大学 食の安全研究センター、岩手大学 動物医学食品安全教育研究センター、大阪府立大学 食品安全科学研究センター、東北大学 食と農免疫国際教育研究センター(CFAI))が一同に会した第8回共同開催フォーラムを神戸大学百年記念館(六甲ホール)で開催され、CFAIから高橋英樹センター長、北澤春樹副センター長、種村健太郎教授、米山裕准教授が参加しました。21世紀を迎えた頃から我が国の「食の安全・安心」に関する様々な問題(病原微生物、農薬、放射性物質、遺伝子組換え食品等)が露呈し、国民の関心が高まるようになってきた背景から、農学系を基盤とする国内の前記5大学で相次いで「食の安全・安心」にかかわる学術・教育面でのさまざまな取り組みが始まり、各大学の関係部署でセンターが立ち上がりました。高齢化社会を迎えた我が国では生活習慣病患者数の増大、それに伴って食の機能性についての関心の高まりもあって、2011年の共同フォーラム開催以降、これら5大学のセンターが毎年個性的なテーマを設定し議論を重ねてきました。

今年の共同フォーラムは、これまでの各センターの活動状況、なかでも教育面での活動と各センターの産学官との連携の取り組み状況を公表する共同開催フォーラムでした。CFAIからは、高橋英樹先生による「食と農免疫国際教育研究センター(CFAI)における教育・研究活動の紹介」と北澤春樹先生による「食と農免疫国際教育研究センター(CFAI)(と他機関)との連携」について紹介されました。特別企画としては宮崎大学の「獣医学部産業動物防疫リサーチセンター」の光澤尚明先生をお招きし、宮崎大学で取り組んでいる産業動物の防疫に関する教育・研究拠点の創生とグローバル人材育成についての講演がなされ、その後のパネルディスカッションによる公開討論会で活発な質疑応答がなされました。

次回のフォーラムからは宮崎大学を含めた6大学フォーラムへと組織も拡大され共同開催フォーラムが開かれることが紹介され、さらなる「食の安全・安心」に関するグローバルな教育・研究活動の発展が期待されました。



講演後神戸市街をバックに神戸大学百年記念館前で撮影した集合写真



パネルディスカッションの様子